

りんご摘果講習会資料

令和3年5月18日

富山県高岡農林振興センター

1 生育概況

本年は、2月から4月上旬の気温が平年より高く推移したため、開花盛期は「王林」では4月16日頃（前年比9日早い）、「ふじ」では4月25日頃（前年比6日早い、平年比4日早い）と前年、平年より早くなりました。

開花期間中の天候は、晴天日が多かったため、現時点での結実は良好ですが、4月上中旬に降霜・降雹があったため、今後、果実への影響が懸念されます。

2 予備摘果

(1) 実施時期

結実が確認されてから満開30日後（5月25日頃）までの間に実施する。

(2) 摘果方法・程度

予備摘果の方法は、中心果を残し、側果を落とす（写真1）。また、貧弱な果そう、二年枝の果そう等は摘果する。

「ふじ」以外の品種は、側果を着果させるとサビ果の原因になるため、中心果以外は着果させない。

(3) 予備摘果時の注意点

果実に傷をつけないようにするため、摘果時に果梗を残さない（写真2）。



写真1 「ふじ」の中心果と側果



写真2 果梗を残さない予備摘果



写真3 果梗が残った予備摘果

3 仕上げ摘果

(1) 実施時期

満開後 60 日（6 月 25 日頃）までに実施する。結実の多い樹、樹勢の弱い樹から始める。

(2) 摘果程度

「ふじ」の場合、4～5 頂芽、葉数では 50～60 枚程度に 1 果の割合とする。着果数は、「樹勢が弱い樹」や「下がり枝」には少なく、「樹勢が強い樹」や「上がり枝」には多くする。

(3) 仕上げ摘果で落とす果実

- ・ 正常果（写真 4）を残し、変形果・奇形果（写真 5）を摘果する。
- ・ 青実果になりやすい以下の果そうは摘果する。
 - ① 果台長が 2 cm 以上の果そう（写真 6）。
 - ② 果台枝が 20cm 以上の果そう（写真 6）。
 - ③ 20cm 以上の長果枝先端の果そう。
- ・ 直射日光が当たり、果面が赤くなっている果実は、日焼け果になりやすいため、摘果する。なお、着果数が不足する場合は残す。

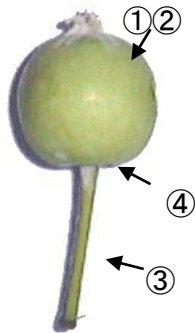


写真 4 正常果

- ① 大きい
- ② 形が左右対称
- ③ 軸が太くて長い
- ④ 軸と果実の付け根にくぼみがある

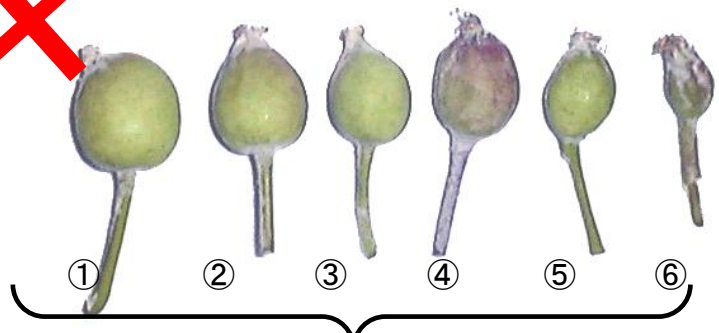


写真 5 変形果、奇形果

- ① 果梗から果頂部にかけて曲がっている、
- ② 果梗が短い、③ 果形が悪い、④ 果実に筋がある、
- ⑤ 小さい、⑥ 細い等。

※霜や雹により、かさぶた状の傷（サビ果）や、くぼみがある果実も摘果する。

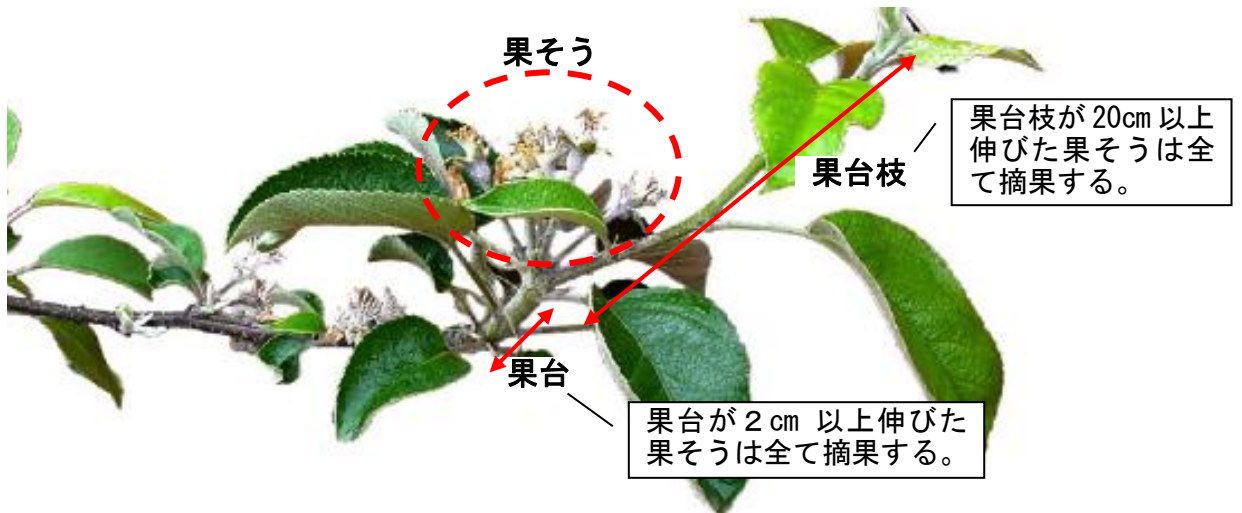


写真6 果台と果台枝の例

4 新梢管理について

受光環境の改善や薬剤到達性の向上のため、6月から主幹および主枝基部から1 m程度の間で発生している新梢を切除してください（写真7）。ただし、**主枝骨格枝の背面の日焼け防止**のため、20～30cm 間隔に1本程度、新梢の向きをそろえて残してください。



写真7 新梢管理前（左）と新梢管理後（右）

5 病虫害対策

今後は病虫害の発生期となりますので、下記の対策を徹底して下さい。

- (1) カミキリムシ類：エアゾール式殺虫剤（例：ロビンフード、前日まで、5回以内）を食入孔にノズルを差し込み噴射。
- (2) ハダニ類：殺ダニ剤を散布する前に下草を刈る。
- (3) 輪紋病：イボ皮を削り、バッチレート（3回以内）を塗布する。
- (4) 赤衣病：ポリオキシシンAL水和剤(1,000倍、3日前まで、3回以内)を散布するとともに、病斑を削り取り、バッチレート（3回以内）を塗布する。
- (5) アブラムシ類：登録のある殺虫剤(例：モスピラン顆粒水溶剤4,000倍、前日まで、3回以内)で防除

6 土壌水分の管理について

排水不良園では額縁排水路や明きょを設置し、排水性の改善を図る。また、降雨が少なく土壌が乾燥する場合は積極的にかん水を行う。